



別紙

平成29年度 第3四半期決算概況

目次

I . 平成29年度 第3四半期決算	① ~ ⑩
II . 平成29年度 業績予想・配当方針	⑪ ~ ⑭
(参考)平成29年度 第3四半期決算 主要ポイント	⑮ ~ ⑯

I . 平成29年度 第3四半期決算

1-1. 連結業績概要

- 売上高(営業収益)は、販売電力量の減少はありましたが、燃料費調整制度の影響による電気料金収入の増加に加え、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の交付金と賦課金が増加したことなどから、9,541億円と前年同期に比べ820億円の増収となりました。
- 営業費用は、経営全般にわたる効率化に努めたものの、燃料価格の上昇による原料費の増加に加え、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の納付金の増加などにより、9,294億円と前年同期に比べ929億円の増加となりました。
- この結果、営業利益は247億円と、前年同期に比べ108億円の減益となりました。
- 支払利息などの営業外損益を加えた経常利益は197億円となり、前年同期に比べ16億円の減益となりました。
- 湯水準備金および原子力発電工事償却準備金を引き当て、法人税などを控除した親会社株主に帰属する四半期純利益では121億円となり、前年同期に比べ26億円の減益となりました。

1-2. 業績概要【連結・個別】

2

(1) 連結

(単位:億円, 未満切捨)

	平成29年度 第3四半期(A)	平成28年度 第3四半期(B)	増減 (A-B)	増減率 (A/B-1)
売上高	9,541	8,720	820	9.4%
営業利益	247	355	▲108	▲30.5%
経常利益	197	214	▲16	▲7.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	121	148	▲26	▲17.9%

(2) 個別

(単位:億円, 未満切捨)

	平成29年度 第3四半期(A)	平成28年度 第3四半期(B)	増減 (A-B)	増減率 (A/B-1)
売上高	8,917	8,153	764	9.4%
営業利益	207	325	▲117	▲36.1%
経常利益	163	223	▲60	▲27.0%
四半期純利益	102	214	▲111	▲52.1%

2. 販売電力量

3

- 販売電力量は 401.3億kWhと、前年同期に比べ 3.9%の減少となりました。
- 産業用の大口電力は、鉄鋼や化学が減少したことなどにより、前年同期を下回りました。

(単位: 億kWh)

	平成29年度 第3四半期(A)	平成28年度 第3四半期(B)	増減 (A-B)	増減率 (A/B-1)
販売電力量計	401.3	417.5	▲16.2	▲3.9%
低圧	139.3	139.1	0.2	0.2%
電灯	124.2	123.5	0.7	0.6%
電力	15.1	15.6	▲0.5	▲3.2%
高圧・特別高圧	262.0	278.4	▲16.4	▲5.9%
業務用	73.1	76.9	▲3.8	▲5.0%
産業用	188.9	201.5	▲12.6	▲6.2%
再掲: 大口	160.6	170.5	▲9.9	▲5.8%

3. 発電電力量

- 自社の水力発電は、前年同期に比べ出水減により減少しました。
- 自社の火力発電は、販売電力量の減少などにより減少しました。
- 融通・他社受電は、太陽光発電の増加はあるものの、他社発電所からの受電減などにより減少しました。

(単位: 億kWh)

	平成29年度 第3四半期(A)	平成28年度 第3四半期(B)	増減 (A-B)	増減率 (A/B-1)
発電電力量計	439.4	455.4	▲16.0	▲3.5%
自社	275.1	285.9	▲10.8	▲3.8%
(出水率)	(105.9%)	(113.4%)	(▲7.5%)	
水力	27.4	27.6	▲0.2	▲0.7%
火力	247.7	258.3	▲10.6	▲4.1%
(設備利用率)	(－)	(－)	(－)	
原子力	－	－	－	－
新エネルギー等	0.0	0.0	0.0	1.6%
融通・他社受電	171.4	175.1	▲3.7	▲2.1%
揚水動力	▲7.1	▲5.6	▲1.5	26.8%

注: 島根原子力発電所2号機は平成24年1月から運転を停止しています。
 融通・他社受電は、期末時点で把握している電力量を記載しています。

4. 収支概要【連結】 (1) 収益

5

(単位: 億円, 未満切捨)

	平成29年度 第3四半期 (A)	平成28年度 第3四半期 (B)	[増減率] 増減 (A-B)	主な増減理由
経常収益	9,654	8,822	831	
売上高 (営業収益)	9,541 (8,917)	8,720 (8,153)	820 (764)	
電気事業営業収益	8,728	8,007	[9.0%] 720	
電気料金収入	7,014	6,649	[5.5%] 365	燃料費調整額 +467 再エネ賦課金の増 +123 販売電力量の減 ▲182
その他	1,713	1,357	[26.2%] 355	再エネ交付金の増 +176
その他事業営業収益	1,597	1,473	123	
連結処理	▲784	▲760	▲23	
営業外収益	112	101	10	

注: ()内は、個別の数値を記載しています。電気事業営業収益は個別の数値。

4. 収支概要【連結】 (2) 費用

6

(単位:億円, 未満切捨)

	平成29年度 第3四半期 (A)	平成28年度 第3四半期 (B)	[増減率] 増減 (A-B)	主な増減理由
経常費用	9,456	8,608	848	
営業費用	9,294	8,364	[11.1%] 929	
電気事業営業費用	8,527	7,689	[10.9%] 838	
人件費	730	750	▲19	
原料費	4,208	3,502	706	CIF高 +438
燃料費	1,473	1,238	235	再エネ買取費用の増 +285
地帯間・他社購入電力	2,735	2,264	471	為替レートの円安 +90 販売電力量の減 ▲110 石炭利用の増 ▲12
修繕費	662	705	▲43	
減価償却費	677	690	▲13	
原子力バックエンド費用	36	38	▲1	
その他	2,212	2,002	209	再エネ納付金の増 +123
その他事業営業費用	1,547	1,431	115	
連結処理	▲781	▲756	▲24	
営業外費用	162 (156)	243 (223)	▲81 (▲66)	

注: ()内は、個別の数値を記載しています。電気事業営業費用は個別の数値。

「原子力バックエンド費用」は、使用済燃料再処理等拠出金費、特定放射性廃棄物処分費、原子力発電施設解体費の総額を記載しています。

4. 収支概要【連結】 (3) 利益等

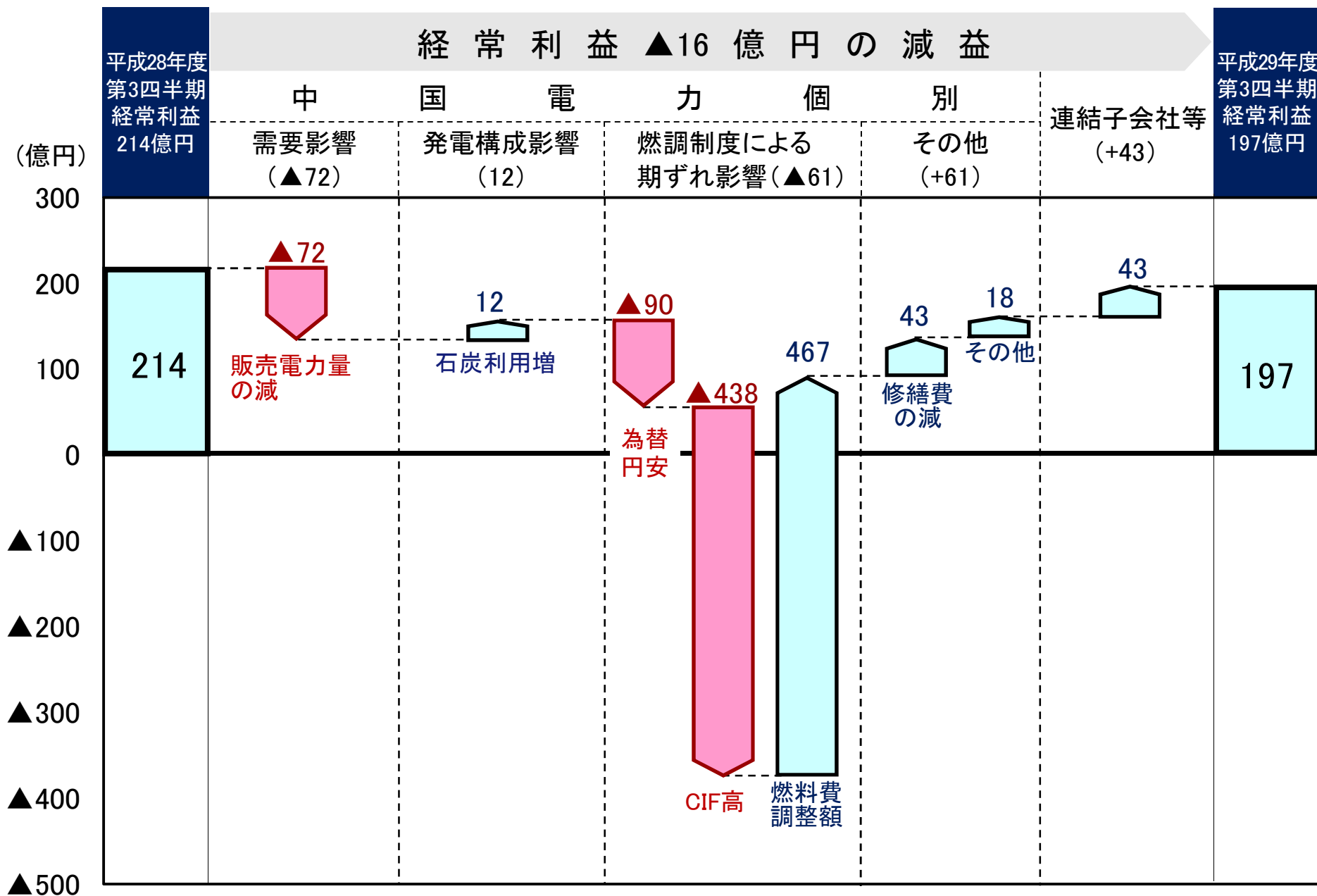
7

(単位:億円, 未満切捨)

	平成29年度 第3四半期 (A)	平成28年度 第3四半期 (B)	増減 (A-B)	主な増減理由
営業利益	247 (207)	355 (325)	▲108 (▲117)	
経常利益	197 (163)	214 (223)	▲16 (▲60)	
渴水準備金	1	4	▲3	
原子力発電工事 償却準備金	28	11	17	
法人税ほか	46	50	▲3	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	121 (102)	148 (214)	▲26 (▲111)	

注: ()内は, 個別の数値を記載しています。

5. 経常利益の変動要因【連結】



6. セグメント情報(1/2)

9

(1) 電気事業

■ P. 1 「1-1. 連結業績概要」をご参照ください。

(単位:億円, 未満切捨)

	平成29年度 第3四半期(A)	平成28年度 第3四半期(B)	増減 (A-B)	主な増減理由
売上高	8,728	8,007	720	
営業費用	8,527	7,689	838	
営業利益	201	318	▲117	

(2) 総合エネルギー供給事業

- 売上高(営業収益)は、燃料販売事業収入が増加したことなどから、358億円と前年同期に比べ113億円の増収となりました。
- 営業費用は、燃料価格が上昇したことなどから、341億円と前年同期に比べ112億円の増加となりました。
- この結果、営業利益は16億円と前年同期に比べ0.4億円の増益となりました。

(単位:億円, 未満切捨)

	平成29年度 第3四半期(A)	平成28年度 第3四半期(B)	増減 (A-B)	主な増減理由
売上高	358	245	113	燃料販売事業収入の増
営業費用	341	229	112	
営業利益	16	16	0.4	

(3) 情報通信事業

- 売上高(営業収益)は、情報関係事業収入が増加したことなどから、293億円と前年同期に比べ7億円の増収となりました。
- 営業費用は、減価償却費が増加したことなどから、275億円と前年同期に比べ6億円の増加となりました。
- この結果、営業利益は17億円と前年同期に比べ0.9億円の増益となりました。

(単位:億円, 未満切捨)

	平成29年度 第3四半期(A)	平成28年度 第3四半期(B)	増減 (A-B)	主な増減理由
売上高	293	285	7	情報関係事業収入の増
営業費用	275	268	6	減価償却費の増
営業利益	17	17	0.9	

Ⅱ. 平成29年度 業績予想・配当方針

1. 連結業績予想

- 前回予想に比べ、売上高(営業収益)については、販売電力量の増が見込まれることなどから、増収を見込んでいます。
- 利益については、販売電力量の増に加え経営全般にわたる効率化に努めているものの、為替レートの円安や燃料価格の上昇による原料費の増加が見込まれることなどから、減益を見込んでいます。

2. 業績予想の概要【連結・個別】

12

(1) 連結

(単位:億円)

	平成29年度 今回予想 (A)	平成29年度 前回予想 [平成29年10月] (B)	増減 (A-B)	【参考】 平成28年度 実績
売上高	12,970	12,860	110	12,003
営業利益	300	350	▲ 50	345
経常利益	210	240	▲ 30	194
親会社株主に帰属する 当期純利益	130	150	▲ 20	113

(2) 個別

(単位:億円)

	平成29年度 今回予想 (A)	平成29年度 前回予想 [平成29年10月] (B)	増減 (A-B)	【参考】 平成28年度 実績
売上高	12,110	12,020	90	11,217
営業利益	260	320	▲ 60	288
経常利益	170	220	▲ 50	161
当期純利益	110	140	▲ 30	146

3. 前提となる主要諸元(個別)

13

	平成29年度 今回予想 (A)	平成29年度 前回予想 [平成29年10月] (B)	増減 (A-B)	【参考】 平成28年度 実績
販売電力量(億kWh)	548	542	6	572.5
為替レート(インターバンク)(円/\$)	112	111	1	108
全日本原油CIF価格(\$/b)	56	53	3	47.5

■ 諸元変動による原料費への影響額

(単位:億円)

	平成29年度 今回予想	【参考】 平成28年度 実績
為替レート(1円/\$)	24	23
全日本原油CIF価格(1\$/b)	23	24
出水率(1%)	4	3
原子力設備利用率(1%)	6	5

- 当社は、株主の皆さまに対する利益配分にあたっては、安定配当の継続を基本とし、単年度の業績だけでなく、中長期的な観点から総合的に勘案して、1株につき50円の配当を実施してまいりました。
- 剰余金の配当については、定款の定めに基づく取締役会決議による中間配当及び株主総会決議による期末配当の年2回を基本としています。
- 平成29年度の期末配当については、引き続き未定としており、平成29年10月に公表している配当予想から修正はありません。

< 配当の状況 >

(単位:円/株)

	平成29年度	平成28年度
中間	25 円	25 円
期末	未定	25 円
計	未定	50 円

(参考)平成29年度 第3四半期決算 主要ポイント

1. 損益計算書関係・貸借対照表関係

		平成29年度 第3四半期		平成28年度 第3四半期	
		連結	個別	連結	個別
損益計算書関係	決算概要	5年ぶり 増収(+820億円) 減益(▲16億円)	4年ぶり 増収(+764億円) 減益(▲60億円)	7年ぶり 減収(▲351億円) 増益(+17億円)	7年ぶり 減収(▲331億円) 増益(+59億円)
	売上高	9,541億円 (第1位)	8,917億円 (第1位)	8,720億円 (第5位)	8,153億円 (第5位)
	営業利益	247億円 (第12位)	207億円 (第12位)	355億円 (第10位)	325億円 (第10位)
	経常利益	197億円 (第11位)	163億円 (第12位)	214億円 (第10位)	223億円 (第8位)
	親会社株主に帰属する 四半期純利益/ 四半期純利益	121億円 (第10位)	102億円 (第10位)	148億円 (第9位)	214億円 (第6位)

		平成29年度 第3四半期		平成28年度	
		連結	個別	連結	個別
貸借対照表関係	総資産	3兆1,505億円	2兆9,141億円	3兆1,007億円	2兆8,757億円
	純資産	5,773億円	4,146億円	5,811億円	4,187億円
	自己資本比率	18.2%	14.2%	18.6%	14.6%
	有利子負債残高	2兆1,037億円	2兆618億円	2兆532億円	2兆152億円

注: 決算概要における増益・減益は経常利益ベース
 第3四半期決算は、平成15年度から実施
 順位は各決算時点での過去の金額との単純比較

2. 主要諸元(個別)

16

	平成29年度 第3四半期	平成28年度 第3四半期
為替レート (インターバンク)	112円/\$	107円/\$
原油CIF価格 (全日本)	53.9 \$/b	44.9 \$/b
海外炭CIF価格 (全日本)	100.1 \$/t	75.0 \$/t
原子力設備利用率	—	—

注:平成29年度 第3四半期の原油及び海外炭CIF価格は速報値